

～パラチフス患者の発生について～

- 本日、県内でパラチフス（3類感染症）の患者が確認されました。県内では平成21年（2009年）以来17年ぶりの発生となっており、記録が残っている平成18年（2006年）以降の発生は本事例を含め累計2件です。全国では今年8件（第25週：6月21日時点）報告されています。
- パラチフスは、感染したヒトの便や尿に汚染された水や食べ物を摂取することで感染します。国内で報告される患者の多くが海外で感染したと推定されています。
- パラチフスが流行している南アジア、東南アジア、アフリカ、カリブ海、中央及び南アメリカなどの地域に渡航する場合、加熱された食品を摂取し、生水や生野菜等は避けるとともに、食事前の手洗いを徹底しましょう。

＜患者の概要＞

（1）患者：女性（20歳代）、八代市在住

（2）職業：施設職員

（3）症状：腹痛、下痢、発熱、嘔吐

（4）経過

6月：ミャンマー、タイに滞在。

6月21日：腹痛等の症状があり、八代保健所管内のA医療機関を受診し入院。

6月25日：パラチフスを疑い、保健環境科学研究所で検査を実施。

6月26日：保健環境科学研究所でパラチフスであることを確認。

※患者は入院中だが、快方に向かっている。

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策班

担当 櫻田、徳永

電話 096-333-2240（直通）（内線 33154）

<参考>パラチフスとは

【感染経路】

パラチフス菌による感染症で、主に、感染したヒトの便や尿に汚染された水や食べ物を摂取することで感染します。南アジア、東南アジア、アフリカ、カリブ海、中央および南アメリカ等の地域で見られます。

【症状】

潜伏期間は7日～14日で、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感などの症状を発症します。39℃を超える高熱が一週間以上続き、比較的徐脈（熱が高い割に脈が遅い）、バラ疹（胸や腹部の淡い発疹）、脾腫が出現することがあり、重症例では意識障害、難聴などが見られることもあります。腸出血、腸穿孔といった合併症を起こすことがあります。

抗菌薬の投与による治療が行われます。

【感染予防】

- 流行地域では、加熱された食品を選び、生水、生野菜等は避けること。
- 食事前の手洗いを徹底すること。

【患者報告数の推移】

年次	R3	R4	R5	R6	R7	R8
熊本県	0	0	0	0	0	1 ^{※1}
全国	0	10	9	7	8	8 ^{※2}

※1：本日（6/26）時点

※2：第25週（6/21）時点

【お願い】

報道機関各位におかれましては、個人情報保護の観点から、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、各段の御配慮をお願いします。